

北海道ブロック会議（令和3年10月13日・京王プラザホテル札幌）

例年のように北海道私立専修学校各種学校教育研修大会として開催された。2年ぶりの対面で、新型コロナウイルス感染症対策として参加者を絞って開催された。参加者は約50名。

はじめに公益社団法人北海道私立専修学校各種学校連合会の吉田松雄理事長が大会長としてあいさつを述べた。吉田理事長は、コロナ禍の中でオンライン授業とリアル授業の併用が一般化しつつあること、職業実践専門課程への国からの財政支援についての取組が北海道では以前から行われており、全専各連として他の都府県を巻き込み全国的活動を行っていることなどを指摘、久しぶりの会員校との再会を喜ぶとともに、これまでも増して有為な人材を育成することが重要との考えを強調した。

実行委員長として布川耕吉札幌支部長は、大会テーマである「令和時代の職業教育を考える」について、令和時代の実に3分の2がコロナとともにあり、感染防止策の徹底の一方で、職業教育の発展のために各学校がさまざまな工夫をしながら学生生徒と対峙してきていると述べ、今大会の研修会の演題を紹介しつつ、社会の期待に応えるための努力の必要性を訴えた。

次いで来賓あいさつとして全専各連の福田益和会長が、9月開催予定を延期することで緊急事態宣言後の対面での開催が可能となったことについて謝意を表した。職業実践専門課程を有する専門学校への運営費補助に係る地方財政措置の獲得が全国知事会の国への要望項目として盛り込まれたことや、文科省の協力者会議における専修学校教育の質保証・向上の議論、さらには学校法人ガバナンス改革会議の議論に対する全専各連としての意見表明、間近に迫る衆議院議員選挙とあわせて来年7月の参議院議員選挙への対応などについて、全専各連として理解と支援を要請した。

小憩後、講演Ⅰとして「専修学校・各種学校をめぐる最近の動向」について、文科省専修学校教育振興室の船木茂人専門官が講演。資料をもとに①令和4年度専修学校関係予算概算要求、②新型コロナウイルス感染症への対応、③閣議決定文書、④専修学校#知る専、⑤職業実践専門課程を通じた専修学校の質の保証・向上、⑥リカレント教育、⑦修学支援新制度、ほかについて解説。政府の職業教育関連施策への理解と協力を求めた。

講演Ⅱは、全専各連事務局から6月の総会資料およびブロック会議参考資料にもとづき、全専各連の活動方針と半期の報告、とくに地財措置への対応、協力者会議への対応、学校法人ガバナンス改革への対応等に関し、活動の背景と経緯、方向性と今後の予定等について説明を行った。

講演Ⅲは「with/after コロナの北海道の新たな戦略」と題して、北海道経済同友会顧問で北洋銀行顧問の石井純二氏が講演を行った。ダボス会議2021における「グレートリセット」について、「コロナは悲劇だけが遺産ではなく、新たな価値を見出す契機」との観点から、ニューノーマルに対応したサステナビリティを基軸とした新たなビジネスモデルの構築の重要性を説いた。北海道の戦略としては、東京一極集中型の社会構造から広域分散型社会としての北海道の特性を活かすべきであるとして、コロナを契機に意識改革と行動変容が求められており、デジタル技術を活用した企業の体質強化、既存の観光・物流からの脱却、マネジメントの高度化の重要性などについて、幅広い知見から解説。北海道の人材育成を支える専修学校各種学校への期待にも言及した。

青年懇話会の前鼻英蔵会長から懇話会の活動についての案内ののち、最後に北専各の浅井洋子副理事長が研修大会の閉会にあたり謝辞を述べて、すべてのプログラムを終了した。